



2024年3月期 第1四半期決算説明資料

1 2024年3月期 第1四半期決算概要

2 2024年3月期 通期業績予想

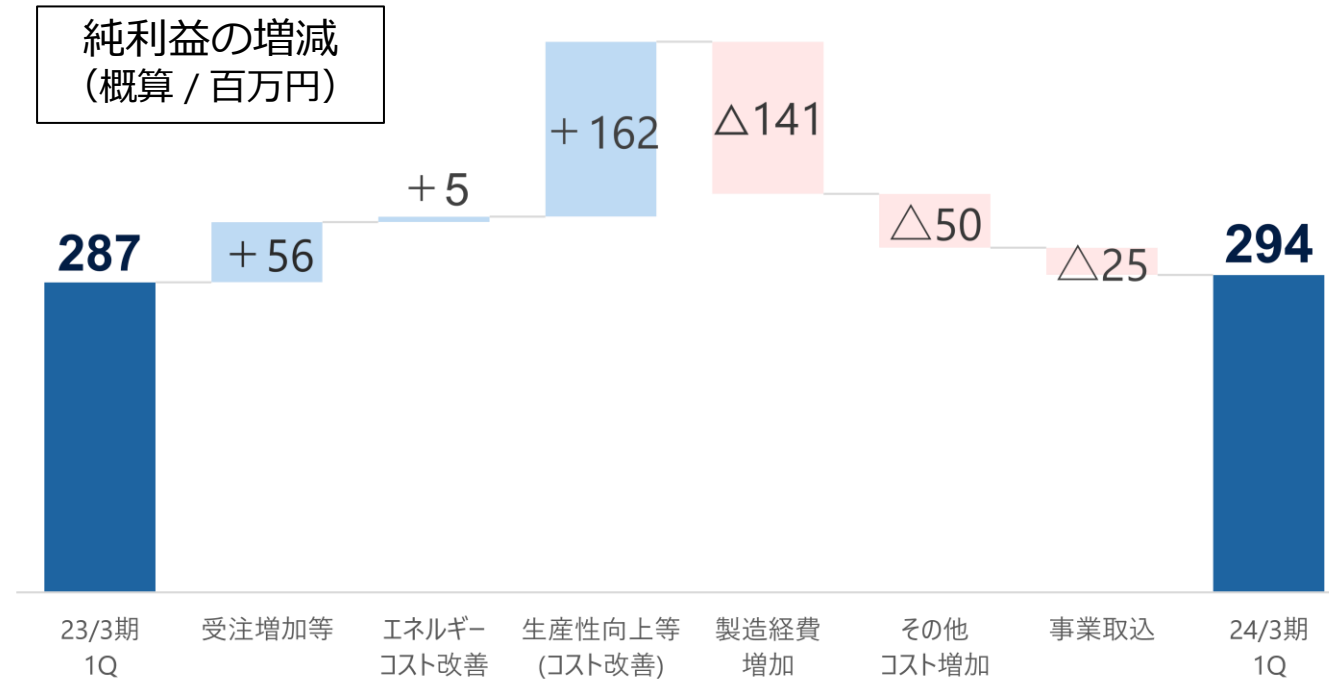
3 参考資料

2023年8月4日

ジャパンフーズ株式会社

(証券コード 2599 東証スタンダード市場)

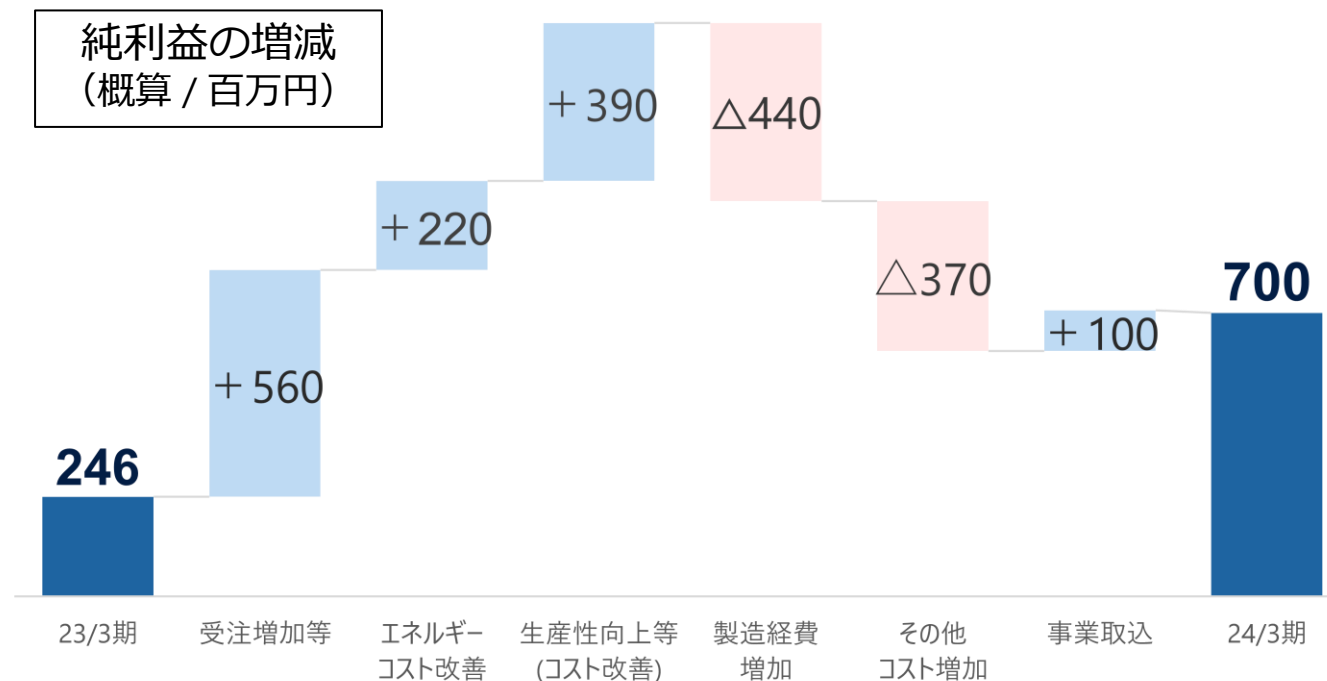
(単位：百万円)	23/3期 1Q	24/3期 1Q	増 減
製造数（千ヶ-入）	11,069	11,499	+430
営業利益	347	370	+23
経常利益	388	411	+23
連結純利益	287	294	+7
（単体 / コア）	(233)	(265)	(+32)
（事業取込利益等）	(54)	(29)	(△25)



- 製造数は、小売価格の改定や物価高による消費者の買い控えの影響が継続しているものの、新製品の積極受注と新たな販売領域の拡大により、前年同期比増加。
- 政府の価格抑制策の効果等によるエネルギーコストの改善や、前期の有形固定資産の耐用年数変更に伴う減価償却費の減少を含めた生産性向上によるコスト改善。
- 一部製造ラインでのオーバーホール実施や、原材料費の高騰による製造経費の増加、その他人件費等の増加によるコスト増加。
- 事業取込利益は、中国事業が新型コロナウイルス感染症の影響により前年同期比減少も、期初計画通りに推移。

(単位：百万円)

	23/3期	24/3期	増減
製造数 (千ヶ-入)	37,989	41,660	+3,671
営業利益	144	680	+536
経常利益	315	890	+575
連結純利益	246	700	+454
(単体 / コア)	(93)	(450)	(+357)
(事業取込利益等)	(153)	(250)	(+97)

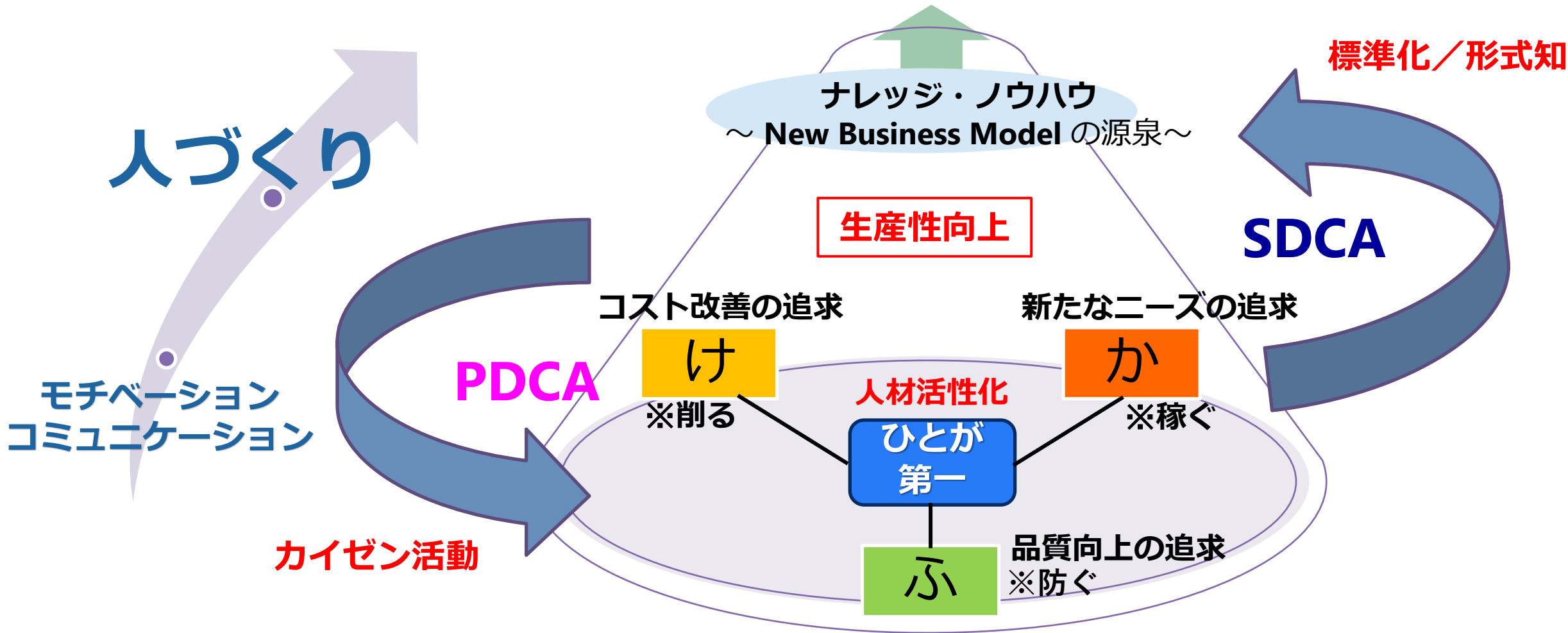


- 製造数は、新製品の積極受注と新たな販売領域の拡大が伸長し、前期比増加の見通し。
- 相場の回復や政府の価格抑制策の効果等によるエネルギーコストの改善や、固定費（主に減価償却費）の減少を含めた生産性向上によるコスト改善。
- 原材料費や物流費の高騰による製造経費の増加や、その他人件費の増加によるコスト増加。
- 事業取込利益は伸長。中国事業の新ライン増設に伴い、製造能力が増強されることで、利益規模が拡大。

品質経営 - ふけかの進化 -

企業理念・経営ビジョン

中期・短期 経営計画



		中期経営計画期間			中長期目標	
		2022年度(実績)	2023年度	2024年度	2026年度目途	
		(単位：百万円)				
経済価値	連結純利益	246	700	750	1,000	
	株主資本比率	34%	38%	45%	50%以上	
	ROE	3.3%	9.2%	9.3%	10%以上	
	営業CF	1,431	2,250	2,600	3,000	
社会価値	環境	温室効果ガス排出量 ※2013年度比	27%削減	—	30%削減	2030年度 46%削減
		給水原単位	4.29L/L	—	4.00 L/L	—
		リサイクル素材PET 使用率	19.2%	—	30.0%	—
	人的資本	女性管理職比率	12.5%	—	13.0%	20%以上
		中途採用人材の 管理職比率	38.0%	—	40.0%	—

➤ 企業価値向上を図るための施策

- ・「品質経営」の全社推進。あらゆる生産性の向上、新たな販売領域の創出。
- ・財務体質の改善と収益力の強化。
- ・JFらしいスマート工場（DX関連）エッジコンピューティング。
- ・市場環境（サステナビリティも考慮）に合わせた設備投資。
- ・人材育成の強化・ひとへの投資。
- ・環境配慮型経営の推進。



**ROE 10%以上、
PBR 1倍以上を目指す。**

サステナビリティに関する考え方

当社グループは、「公正・透明・誠実な企業活動と開かれた企業」及び「企業の持続的発展と社会・環境との共生」という経営理念に基づき、サステナビリティに関する取り組みを推進し、当社グループが事業活動を通じて持続可能な社会作りへ貢献することを目的として4つの重要課題を選定しております。

サステナビリティ推進体制

サステナビリティ/SDGsの推進強化のため、SDGs・ひとづくり・ものづくり管掌を担当とし、その直下にSDGs・ひとづくり・ものづくり室を設置しております。取り組むべきサステナビリティ活動計画の策定・目標の共有、活動計画の進捗管理を実践して、取締役会に提言、報告することで、適切に監督される体制を整備しております。

サステナビリティ重要課題



気候変動（脱炭素）・省エネ/省資源（循環型）

- 安全かつ高品質の製品やサービスの提供を通じ、環境負荷低減・脱炭素社会に貢献。
- 温室効果ガス低減、資源利用効率の向上、廃棄物の最小化・リサイクル化を推進。

ものづくり「品質経営」

- 「ものづくり・品質経営はひとづくり」をスローガンに、お客様に安全・安心な暮らしを提供するため、品質を最重視した活動を推進。
- 品質を支える人材育成に注力。

人権の尊重

- 「ひとが第一」をスローガンに、多様な価値観、チャレンジ精神、チームワークを尊重し、人材の更なる活性化に向けた人的資本経営を推進。
- 個人と企業がともに成長する環境と風土づくりを実施。

コーポレートガバナンス・コンプライアンス

- 経済価値と社会価値を創出し、持続的かつ高い成長を続けるために、経営の透明性と健全性を確保し、意思決定及び業務執行の更なる迅速化を図る。